

主体的な授業（アクティブラーニング） 2

～事例 中学１年「金属とは」～

現場で行われていた授業とその整理会の意見や助言をもとに再構成した。

身のまわりの物質を学ぶ第２時間目である。

- 【前時】 単元全体の学びへのオリエンテーションとリサイクルのしくみ等を学習する。
身近にある物品から金属製品を分類する。
金属は金属光沢を持っていることを学び、それを根拠に分類する。

- 【本時】 金属かどうかの分類作業と金属の性質を見いだす作業を別にし、本時では金属製品だけ提示して性質を見いださせる。

前時の振り返り（５分）

身のまわりには金属という物質のなかまがある。

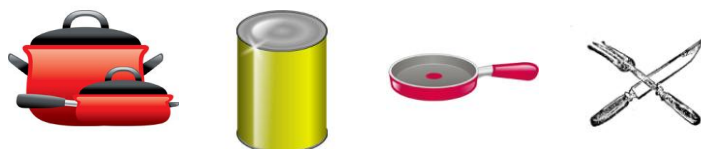
金属光沢がある。

課題 「金属には共通するどのような性質があるのだろうか？」

学校設置者の自治体における金属資源収集のパンフレットを紹介する。

そのパンフレットに出ている家庭にある金属製品を提示する。

（家庭室などから借りることも可。それらが班の数だけそろわなかったら、前時の物品を用いてもよい。）



予想と発表（１０分＝個人３分、班３分、発表３分ぐらい）

金属に共通する性質とそれを調べる方法を考えさせる。

多くの生徒は「磁石にくっつく」という考えを持っているようだ。

実験の説明と実験（２０分）

生徒の予想を覆し、興味を深めるために、アルミ缶に磁石を近づけてみる演示を行う。

実験の時間を十分に確保する。

黒板に各班の結果を書かせ、結果の比較をさせるように配慮する。

考察と発表（１０分＝個人５分、発表５分）

個人で思考しまとめる時間を確保する。

まとめ（５分）

何ら新しさのない授業だが、学びの対象を明確に、思考を集中させる配慮により、アクティブな学びを実現したい。